

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和6年11月12日（火）

2 確認箇所

廃棄物保管庫西側周辺（M/C 5 E 建屋）（図1）

3 確認項目

緊急時における電源車を使った電源復旧の訓練状況

4 確認結果の概要

令和6年11月12日に原子力事業者防災業務計画および特定原子力施設に係わる実施計画に基づく緊急事態に対処するための総合的な訓練が福島第一、第二原子力発電所合同で行われたため、その状況を確認した。

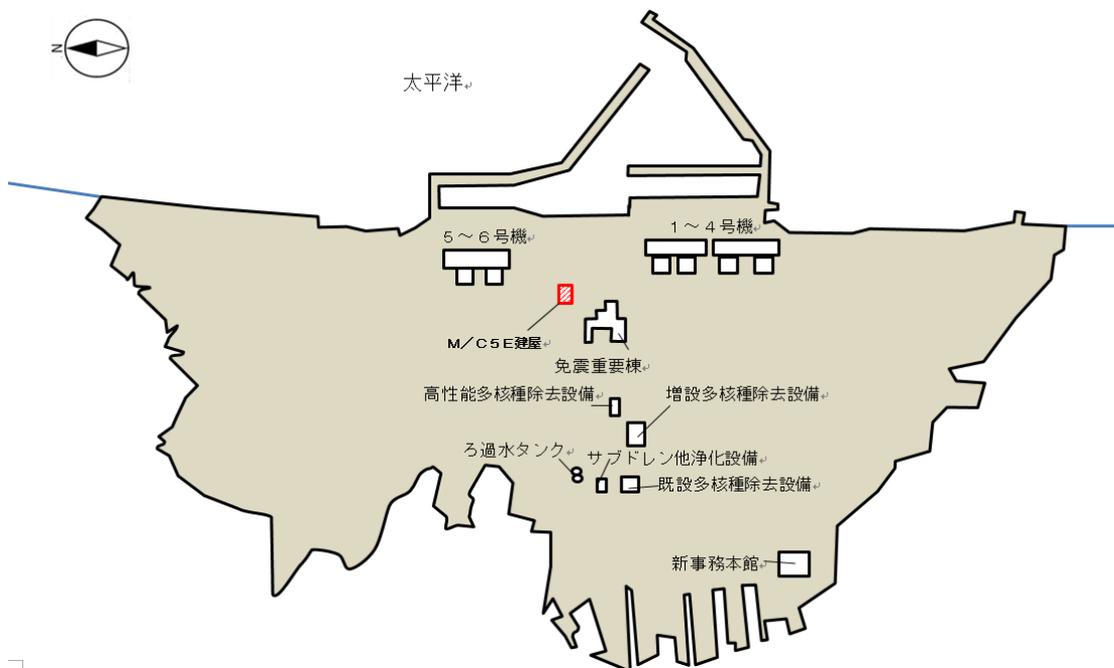
- ・訓練は、福島県浜通り地方を震源とした地震（マグニチュード7.2）が起きた際を想定したものであり、地震による影響で5、6号機が全電源喪失したと想定し、その電源復旧対策として電源車^{※1}を利用した復旧対応が行われていた。（写真1）
- ・東京電力では、5、6号機の外部電源が喪失した場合に備えて、電源車を廃棄物保管庫の西側周辺に3台（内1台は予備）配備しており、この電源車を廃棄物保管庫近傍にあるM/C 5 E 建屋にある電源盤（メタルクラッド）に接続することで5、6号機の中操監視、照明、原子炉注水設備等といった主要な設備に対して電源を供給することができる。
- ・電源車を使った受電作業前に、復旧班員でK Y（危険予知活動）^{※2}が行われ、危険箇所の抽出や安全対策について確認し合い、安全に作業ができるよう心掛けていた。
- ・作業時は、復旧班員の一人が指揮者として指示を出し、作業者は指揮者の指示した箇所を指差し、作業内容を復唱してから作業を進めていた。（写真2）
- ・訓練中にシナリオにはない状況が発生した場合を模擬した対応（①予定していた作業員が負傷のため対応できなくなった。②電源車に接続するケーブルが故障し、別のケーブルを使うよう指示があった。）を復旧班員に求める場合があったが、復旧班員は状況を把握して問題なく対応していた。

※1 電源車

原子力発電所内で外部電源が喪失し、非常用ディーゼル発電機が何らかの原因で使用できない場合に、プラント冷却及び監視に必要な設備を維持するための電源を供給する目的として利用される。福島第一原子力発電所構内には、電源車等が発電に使用する3日分の燃料が備蓄されている。

※2 KY（危険予知活動）

労働災害や事故の原因となる可能性のある不安全行動や不安全状態を「予知」「予測」するための取り組み。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
電源車の配備状況



(写真1-2)
電源盤へのケーブル接続状況



(写真 1-3)
電源車へのケーブル接続時の状況



(写真 2-1)
ランプ点灯確認状況



(写真 2-2)
電源車の発電機からの油漏れ等の確認状況

- 5 プラント関連パラメータ確認
各パラメータに異常な値は確認されなかった。